遙けくも偉大なるかな 足引きの手稲の峰よ

秋<sup>ぁ</sup>き

の愁いを誘う

の末き日で路に

ば

黄で 金が

並に映えて

並み

今日の夢明日は 人の世は移ろこ ど葉は 木の散る. は空しき いやすく 付え

いつの日か成るを夢見むああ友よ理想の世界の世界があたり次代の若芽

され

には

稜線の美しさ永遠にりょうせん 黄昏の山並みを愛ずたそがれできなな 山際に映えては著しやまぎわなり かに夕陽は沈み

風に舞え 胸に湧け 人気無き小道歩かば いざ守らむ真理の灯 ス 飄 飄 学徒 の孤高の思い はようひょうがくと

四

我楡陵に清き花咲け 要若き春の旅路よ 思わずや遠き故郷 仰ぎ見む悠久の天 我進む道を照らさむ くは北斗の星か

> 木村  $\blacksquare$ 政 拓 明 君 君 作 作 曲 歌